

映像探偵社作品

配給協力＝株式会社シネセゾン



# 驚みるように 眠りたい

監督＝林海象



佳村萌  
佐野史郎  
大竹浩二  
大泉滉  
あがた森魚  
十貫寺梅軒  
遠藤賢司  
草島競子  
松田春翠  
吉田義夫  
深水藤子

製作＝林海象・瀬隆重／脚本＝林海象／撮影＝長田勇市／照明＝長田達也／美術＝木村威夫／音楽＝浦山秀彦・熊谷陽子・佳村萌・あがた森魚



# 夢みるように眠りたい

## ◆ 作品解説 説

昭和のはじめ、日本が夢みていた頃……。

映画と、映画に一生を賭けた映画人たちへ限りない愛情を込めた、この作品は、それがドラマとして結実していると同時に、創り手の溢れる映画へのあこがれが大きな魅力となっている。

脚本・監督は、この初めての映画作品に、これまでの映画へのあこがれをストレートに注ぎ込んだ新人・林海象。モノクロ映画にかつての夢の風景を忍ばせ、音楽と状況音だけの純粹な音環境に映画と観客との本来の緊張を蘇らせた。ここでは、言葉は字幕によって処理される。

かつての映画がもっていた夢を蘇生させるため、日本映画界における美術監督の巨匠・木村威夫に美術を

皆さん、日本が夢みていた頃の

恋愛映画ですよ。

女優に恋した男と

その男を恋した女の

追いつ追われつの恋愛映画ですよ。



◆ ス ト リー ト  
大正7年。初めての女優主演による映画といわれる

帰山教正監督『生の輝き』の前に、実は、月島桜が主演した『永遠の謎』という映画があった。しかし、この『永遠の謎』は、警視庁の映画検閲によって妨害され、ラストシーンが遂に撮影できず、その名を映画史から消されてしまった。

昭和のはじめ、東京。私立探偵・魚塚甚のもとに、月島桜と名の老婆から、誘拐された娘・桔梗を探してほしいとの依頼がくる。調査を続けるうちに魚塚は、この事件全体がまるでドラマのようにできすぎていることに気づく。やがて、依頼主の月島桜が主演し、ラ

依頼。贅沢な映像世界を創出した。その世界を見事に映像に解析し再構築したのは、撮影の長田勇市(最近作『TATO(刺青あり)』と照明の長田達也)『最近作『生きているうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』のコンビ。

夢の世界の主演俳優たちは、『泪橋』で衝撃のデビューをした実力派・佳村萌、劇団『状況劇場』出身・佐野史郎、これが最後の映画となる日本映画の名パイプ・レイヤー・吉田義夫、38年ぶりのカムバックとなる戦前の大女優・深水藤子。そして、松田春翠、大泉滉、十貫寺梅軒、あがた森魚、遠藤賢司らが脇を固めている。

この作品の主役のひとつは、浅草を中心とした入念なロケーションによる東京の原風景。日本のかつての夢がここにはある。

(上映時間1時間21分)

ストシーンを残して未完に終わった無声映画『永遠の謎』が、この事件の鍵となっていることを知る。

かつて未完に終わった映画のラストシーンを、そのストリー通り追わされ、自分達が探しているのは月島桜の娘・桔梗ではなく、映画『永遠の謎』のラストシーンなのだ。魚塚は感じていく。完結されない映画のラストシーンを探し求める魚塚……。

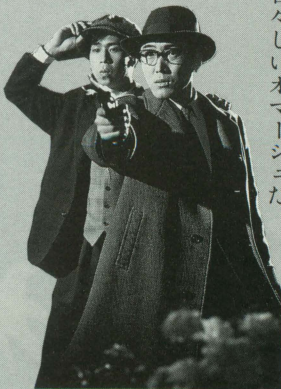
そして、最後に探してあてられた『永遠の謎』のラストシーンが、この映画『夢みるように眠りたい』のラストシーンとなり、二つの映画は時間を超えて融合して、思いもかけない美しいラストシーンを形成していく……。

## 佐藤忠男(映画評論家)

これは、ファンタジーの豊かな感覚にあふれた愉しい映画である。快よくまどろむときの、うつらうつらとした夢の気分が、ここに見事に映像化されている。いい気分だ。

## 品田雄吉(映画評論家)

これは、素直な愛に満ちた、古きよきサイレント映画への若々しいオマージュだ。



## 今野雄二(映画評論家)

完結されなかった〈恋〉にエンドマークを求めて散る桜…手のひらの中でただ光と影だけが戯れる愛らしい佳作。

## 田中千世子(映画評論家)

愛されるために生まれてきた、夢みるような映画である。

## 手塚真(ヴィジュアルリスト)

古典的にして斬新、奇抜でオーソドックスなニュータイプのクラシック・ムービー。夢はみせても、ねむらせません。

## 鴻上尚史(劇団「第三舞台」主宰)

いやあ、いい映画でした。この映画をどう見るか。評論家サンの発言をじっくり聞きたいものです。踏絵になりますよ、これは。

## 優秀映画鑑賞会推薦



1986年度ウエネチア国際映画祭  
批評家週間正式招待作品

〒140 東京都品川区南大井6-27-25(西友大森店)

# キネカ大森

TEL. 03 - (762) - 6000

# 9/26(金)より